

(別紙4(2))

事業所名 : グループホーム ていだの家なかにし(新 かみもり)

作成日 : 令和 6 年 1 月 23 日

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価、及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題の焦点化が難しくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点・課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	3	運営推進会議への利用者や家族、地域代表の参加を促し、自由に意見が述べられるよう、案内や進行方法等の更なる工夫が望まれる。また、外部評価結果や免除年度の自己評価等も必ず報告し、運営に反映させることが望まれる。	R5年12月1日より新規施設への移転があり、新規委員の選出を行う。3ユニット分の報告の為、時間調整し、また事前に資料の配布を行うことにより、委員の全員より意見、助言を頂けるように進行を工夫する。	会議参加のお願い。(郵送、持参)参加の有無の確認。事前に資料に目を通して頂き、内容を確認のうえ参加をして頂けるようお願いする。	3 か月
2	5	身体拘束適正化委員会の指針やマニュアル、運営推進会議の役割などを再確認し、身体拘束の具体的な行為11項目以外にも、現対応の中に拘束と捉えられそうな言動が無いかな等も職員間で話し合い、更なる意識向上への取り組みを期待したい。	定期的に研修を行い、身体拘束についての知識を職員全員で共有する。	具体的な例を取り上げ、朝の申し送り時に報告し、意見交換行う。外部に研修を依頼する。	6 か月
3	14	事業所の強みである医療との連携を活かして、これまで以上に体制づくりに努め、理念にある「ありのままを受け入れて、その人らしい生活を送る」ためにも、利用者の人生の最期まで支援できるよう、看取りの取り組みが望まれる。	定期的に研修を行い、看取りについての知識を職員全員で共有する。また喀痰吸引等、看取りに必要な資格取得や研修に取り組む。	職員への研修、意思確認。更なる医療連携。ご家族へ主治医から意思確認をして頂き、必要書類の作成を行う。	12 か月
4	15	事故やヒヤリハット報告書の目的を職員間で再確認し、改善策を協議するとともに、対策の検証、事故の集計・分析を行う等、報告書を活用して、事故の再発や未然防止に取り組むことが望まれる。	誤薬事故の再発防止。転倒事故を未然に防ぐ。事故発生時には朝の申し送り時に報告し、対応策を検討し記録する。	職員への申し送りを徹底し、再発防止の為の検討を行う。応急手当や初期対応の訓練を定期的に行う。薬剤師に現場での運用の指導を受ける。理学療法士より移動・移乗介助のアドバイスを受ける。福祉用具コーディネーターより適切な使用方法についてアドバイスを受ける。	6 か月
※優先順位を4つに絞り、取り組みを行っていきます。					

注) 項目の欄については、自己評価項目の番号を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。